

学術情報センターだより第3号（図書館報 YPU Library 第22号）

発行：2017年9月1日

山口県立大学学術情報センター
電話（内線）5475
e-mail: gakujo@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学図書館
電話（内線）5791
e-mail: lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp

目次

1. 昨年度は2名の在外研修がありました	2
2. 昨年度の学術出版助成は1件でした	3
3. 英語論文投稿支援は随時募集中です	4
4. 昨年度から研究推進支援事業が始まりました	4
5. 各種研究支援のご案内です	6
6. 本学教員の出版図書の展示コーナーに寄贈をお願いします	7
7. 公立大学協会図書館協議会中国四国地区協議会について	7
8. 9月中旬～12月末：購入したい図書に投票を！	8
編集後記	8

今回のニューズレターは、研究支援部門を中心にした特集号です。ご利用いただける支援制度について、ぜひこの機会にご確認ください。

1. 昨年度は2名の在外研修がありました

山口県立大学では、教員の教育研究力向上のため、国内外での研修制度を設けています。昨年度の研修からもどられた2名の先生方の報告です。また、今年度は看護栄養学部の2名の先生方が、アメリカとインドネシアへ研修に出られます。来年度の在外研修の応募締切りは、平成29年10月31日(火)までです。詳しくは本学ホームページ(教職員専用 → 様式ダウンロード)から「平成30年度滞在研修募集要項」をご覧ください。

● 国際文化学部国際文化学科教授 林 炫情

私は「内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning; CLIL)実践を目的とする韓国語教育プログラムの開発」を研究テーマに2016年8月20日から2017年3月24日の間、中国大連外国語大学及び韓国釜山大学校人文大学で滞在研修を行いました。研修の成果としては、大きく次の4点が上げられます。

① 平成29年度新規開講科目「インターカルチュラル韓国語」の授業プランを作成しました。授業設計の内容としてはグローバル化が進むなかでの中国と韓国における外国語カリキュラムや教材研究、授業観察などを通じて、本学の韓国語教学の改善をはかるとともに、CLILアプローチをベースにした「インターカルチュラル韓国語」授業プランを作成することにあります。現在作成した授業計画を実際運用中ですが、授業プランの有効性などについては学期末の授業評価をまわって総合的に検討し、次年度の授業に生かしていきたいと考えています。

② 研修先での教員らとともに、グローバル社会に対応した外国語教育のCLIL型学習を支援するための教材作成ができました。大連外国語大学の教員らと作成した教材「韓国語プレゼンテーション」は、現在北京大学出版社と出版に向けて交渉中です。本教材はすべて韓国語で書かれていますが、よく使われる表現については中国語、日本語、英語などの訳と説明を付け加えてありますので、「効果的に伝えるための韓国語」の手引き書として日本人韓国語学習者も使用しやすいような教材となっています。

③ 研修中に国際共同研究を前提とした新たな研究者ネットワーク作りができました。その成果として平成30年度科学研究費助成に申請を念頭に「内容重視の批判的韓国語教育支援を目的とするシステム構築とその基盤形成のための研究(仮)」の基盤研究を共同研究者らと進めているところです。

④ その他、研修中は大学院生向けの講演や国際シンポジウムでの講演などを通し、研究分野の異なる研究者とも積極的に交流を行うことで研究領域の幅をより広げることができました。

なお、以上の本研修の成果については、本学の国際文化学研究会主催の11月の定例会において詳細に報告する予定としていますので、ぜひご聴講ください。

最後に、この度はこのような貴重な機会をいただきましたことに、改めて感謝致します。今後も引き続き教育研究活動に精力的に取り組み、精進していく所存です。

● 社会福祉学部社会福祉学科准教授 高木 健志

私は、2016年10月1日～2017年3月31日(6ヶ月間)の間、九州大学大学院人間環境学研究院 共生社会学講座 高野和良教授の指導のもとで在外研修させていただき貴重な機会を与えていただいた。そこで、この場を借りて、以下に、報告させていただきたい。

現在、報告者は、日本学術振興会より科研費研究として、中山間過疎地域に居住する精神障害者の

地域生活支援のために、精神保健福祉士の訪問型支援の指標評価改発に関する調査、研究について取り組んでいる。社会福祉学の観点から研究を進めていくなかで「中山間過疎地域」についての社会学における中山間地域研究の知見、なかでも共生社会学や福祉社会学の観点からの研究視座の獲得が、研究遂行にあたって必要と強く感じた。

そこで、今回、報告者にとって、重要でありかつ不可欠な研究視座としての社会学における中山間過疎地域研究の知見、なかでも共生社会学や福祉社会学の観点からの教授を受けたく、高野教授のもとで、次のような具体的な内容で研鑽を積み、研究に励むことができた。

研究テーマである中山間過疎地域に関する研究については、特にテーマに関する高野教授からの個別指導、また高野教授が行う調査への同行によって、社会的観点や手法による中山間過疎地域における調査を実技として指導いただく貴重な機会を得ることができた。

また、研修期間中においては、継続的に、大学院共生社会学講座において開講されていた講義の聴講や、大学院同講座ゼミへの参加を許され、最新の社会学の知見に触れ、また大学院生との研究に関する議論では広い視点からの追求を学ぶことができたことは、本研修の大きな成果である。さらに、九州

大学大学院人間環境学研究院共生社会学講座や高野教授が主宰する研究会への参加、社会学領域の学会への参加を通して、社会学研究者、なかでも、中山間過疎地域等を精力的に研究している研究者、またアジアなかでも台湾の研究者との関係を形成できたことも大きな成果である。

最後になりますが、このような機会を与えていただいた江里理事長をはじめ長坂学長、岩野副学長、加登田副学長、横山社会福祉学部長、社会福祉学部の諸先生方、教職員の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

2. 昨年度の学術出版助成は1件でした

学術出版助成は、本学で行った研究のなかで商業出版には向かず、少数の出版を行うものを支援します。昨年度の学術出版助成を受けた先生の報告です。なお、今年度の学術出版助成の申請は、平成29年9月25日（月）午後5時までです。詳しくは本学ホームページ（教職員専用 → 様式ダウンロード）から「学術研究出版助成事業実施要領(H26.6.25)」をご覧ください。

●『廃村続出の時代を生きる』—修士研究の宿題をあたため続けて40年 名誉教授 安溪遊地

以下は、本書の帯の言葉である。「崩壊する村々を前にして／今、地方に暮らす誰もが、人口減と生活基盤の崩壊への危機感を抱いている。南の島じまではいち早くこの状況が訪れていた。廃村から甦った村、新しく生まれた村もある。数々の廃村研究を踏まえ、足下から未来を切り開く術を探る。」

今西錦司以来の京大アフリカ研究にあこがれて、私は1974年大学院に進学した。伊谷純一郎先生の指示は、しかし、西表島の廃村研究だった。明治の末から人が住まなくなった海辺のジャングルに2年間通った。もよりの人家までは、岩場を跳び、海辺を歩き、川を渡って8時間の道のりだ。西表島にはアフリカに行けるようになった後も通い続けて地域研究や地域活性化に取り組んできたが、常に心にかかっていたのは、廃村研究の宿題だった。例えば、私の調べていた鹿川村を明治19年に訪ねて詳しい記録を作



成した探検家・田代安定の資料の行方がそうだ。2007年以降、学生たちとともに台湾大学図書館に通うようになり、ついに見つけたのが、田代安定の報告書の原本だった。そこには、私が40年前に推定した廃村での暮らしの詳細が、挿絵入りで書かれていた。今回の表紙の表紙がそのひとつである。

こうした経緯で、本書のはじめの3分の1は、私の修士論文をもとにしたものである。大学教員となってから屋久島を舞台に全国の学生達と訪れた廃村や、この20年ほどの過疎地での生活経験なども盛り込んで、人口減少社会となった日本の最先端の課題とも切り結ぶように編集してみた。

幸い、山口県立大学の出版助成をいただき、鹿児島市の南方新社から出版できた。県立大学の教員としての最後の3年間に、編著者として出版した11冊の本の最後で自分の研究生生活の原点にもどれたことは、あらたな出発への大きな励ましである。

3. 英語論文投稿支援は随時募集中です

英語校閲の支援には、国際雑誌等への論文投稿等のため、毎年多くの先生方が申請をされます。詳しくは本学ホームページ（教職員専用 → 様式ダウンロード）から「山口県立大学 英語論文投稿支援 経費申請要領（平成29年度）」をご覧ください。申請期限は平成30年2月23日（金）午後5時までですが、予算がなくなり次第、募集を終了します。

4. 昨年度から研究推進支援事業が始まりました

研究成果物の発行や出版を行う教員を支援策するため、研究推進支援事業が始まりました。昨年度は、この支援を受けて2名の先生方が出版物をまとめられました。今回はまず1名の先生の報告を行います。

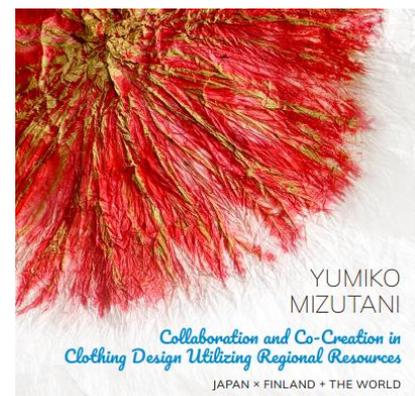
『Collaboration and Co-creation in the Clothing Design Utilizing the Regional Resources: Japan × Finland + The World』の出版

国際文化学部文化創造学科教授 水谷由美子

はじめに

平成29年春に、平成28年度山口県立大学研究推進支援事業助成を得て、ラップランド大学から『Collaboration and Co-creation in the Clothing Design Utilizing the Regional Resources : Japan × Finland + The World』を紙媒体と電子媒体（ラップランド大学 Lauda）の両方で発行されたので、以下でその内容を紹介したいと考える。

本書はラップランド大学で発行される予定であったために、基本は英語で各章が書かれており、I章とII章以外は日本語の対訳となって



おり、I章とII章は同様の内容で英文、和文ともにそれぞれ別々に投稿された論文やエッセイがリライトされたものである。

表紙は筆者の作品「AMATERASU」のディテールがアップされデザインされたものである。

(1) 著書の内容と構成

全体の内容は目次を記すことで説明に替えたい。

- I Practical Research on Costume Design Utilizing International Exchange and Regional Resources ; Joint International Research with Universities in Finland
国際交流と地域資源を活用する服飾デザインに関する実践的研究 - フィンランドの大学との国際共同研究
- II Clothing Design Utilizing Regional Resources
地域資源を活用した服飾デザイン
- III JAPAN × FINLAND WORKSHOP
日本×フィンランド ワークショップ
- IV Clothing Design and Service Design
服飾デザインとサービスデザイン
- V AGRI-ART FESTIVAL 2013-2016 and SUPER GLOBAL FASHION WORKSHOP 2016
アグリアート・フェスティバル 2013-2016 とスーパーグローバル・ファッション、ワークショップ SGFWS2016
- VI ROVANIEMI · ARCTIC DESIGN WEEK 2017: "Dialogue with Nature ~ From Yamaguchi in Japan" Exhibition
ロバニエミ・アークティック・デザイン・ウィーク 2017: 「自然との対話 ~ 日本の山口から」展の開催

Conclusion

おわりに

(2) 出版に向けたコラボレーション

本書は当初84頁の予定で作成し始めた。写真の量は100枚の選定から約半分にしたが、文字原稿を全訳することになり、結果、100頁の本となった。

ラップランド大学芸術デザイン学研究科のマルヤッタ・ヘイッキラ・ラストス教授と長年、ワークショップを通じた共同研究をしてきており、ラストス教授は数年おきにラップランド大学芸術デザイン学部のシリーズの1冊として、我々の国際共同研究やワークショップについてすでに2冊の本を執筆されている。

そこで、マルヤッタ教授の著作の姉妹編になるような意図で、出版計画を立てた。しかし、マルヤッタ教授は平成28年(2016年)11月に退職されたために、この本の計画を受け入れる教授がいない状態で、試案していたところ、従来から交流があったテキスタイルデザインの教授であるヘイディ・ピエタリネン教授が受入教授を担当することになり、芸術デザイン学部の許可も得られて、ラップランド大学からの出版に漕ぎ着けた。

(3) 国際共同研究から2都市間交流の始まりへ

本書は筆者とフィンランドとの交流そしてラップランド大学との学術交流協定締結後の深い交流を時間に沿って縦軸で記している。また筆者が地域資源を活かした服飾デザインの手法を山口で実践して

いる事例やそれをラップランド大学との共同研究およびワークショップにおいて応用していることを横軸に、多くの事例における活動を記し検証している。

1999年から始まった産学公連携事業「やまぐち文化発信ショップNaru Naxeva」で大学院生とともに山口県立美術館が姉妹館提携を締結したヘルシンキ市立美術館の「雪舟とその弟子たち」展のために、「雪舟Tシャツ」を作成した。筆者がフィンランドに出かけるきっかけとなったのは、現地数カ所でTシャツを販売する状況を視察するためであった。この時の大学訪問で得た影響により2002年にヘルシンキ芸術デザイン大学に客員教授として半年滞在することになった。その後、フィンランドの芸術デザイン分野の人々との交流が生まれ、ラップランド大学との国際共同研究も可能となった。

地域の社会や文化の環境に配慮しつつサステナブルデザインを目指したワークショップ（WS）を2009年から開催してきたが、2013年からはラップランド大学が先行していたサービスデザインの手法を取り入れたワークショップを行い、その結果本学で授業を起すまでに発展した。

さらにアグリアート・フェスティバルと関連して、世界の4カ国4大学の教員と学生を招聘して山口で行ったスーパーグローバル・ファッションWSファッションショーでは学生たちが居ながらにして交流できる新たなコ・クリエーションの場が生まれた。

さらに、学術交流から行政および市民交流がはじまったことを述べている。特に筆者が関わって開催されたロバニエミ・デザイン・ウィークでの「自然との対話 ～ 日本の山口から～」には山口市、山口商工会議所および山口県立大学で作られたクリスマス・フィンランドプロジェクト実行委員会が主催者となって、多くの作家、デザイナーおよび市民が参加した。今後の両市の交流にとってこの市民交流がかけがえのないステップだと確信する。

以上のように地域資源を活用した研究創作から国際共同研究そして都市間交流へと繋がってきたプロセスと活動内容を本文では中心的に記している。

（4）まとめ 謝辞に替えて

最後に江里健輔理事長、長坂祐二学長をはじめ山口県立大学の関係者の皆様、発行をしたラップランド大学の関係者の皆様、英語訳監修を担当したウィルソン・エイミー教授、部分訳をした田中菜採講師、セネック・アンドリュウ助教他、ブックデザインをしたサンテリ・ハッポネンと日本語の校正および出版に関する初期の交渉などを担当した甲斐少夜子、ハードな編集作業に多大な協力をした浅田陽子、武永佳奈、高橋潤一郎、小田玲子に心からお礼を申し上げます。なお、出版の印刷費の助成をした東芝国際交流財団にこの場を借りてお礼申し上げます。

5. 各種研究支援のご案内です

学術情報センター研究支援部門では、さまざまな研究支援を行っています。ぜひ、ご相談、ご活用ください。

● 科研費申請支援をご活用される場合

- ・ 科研費申請に関する本を揃えており、貸し出しをしています。
- ・ 科研費申請書の立案、作成などについて、研究支援者と相談ができます。
- ・ 前年度の採択者のなかで許可を得た申請書の閲覧ができます。

- ・ピアレビュー制度をとおして前年度の申請書あるいは今年度の申請書について第三者の意見を得ることができます。
- ・申請書の形式チェックは申請者全員に対して行います。

●その他の外部資金申請支援にご応募される場合

- ・各種団体からの助成金公募情報については、地域共生センターからお知らせがあり、南キャンパス本館玄関横の掲示板でも周知しています。科研費ではなく、これらの団体等の公募条件にあう研究内容もあるので、研究計画の段階からぜひご相談ください。

●九州大学出版会、その他の出版助成をご利用される場合

本学が所属している九州大学出版会は、九州を中心としつつ中国地方までを広く含めた地域名を冠にもつ出版会です。加盟大学は以下のとおりです。本学では、九州大学出版会からの講師を招いた出版研修を2年連続して開催するとともに、本学教員による出版物の紹介や、数多くの著書を

九州大学出版会は、西日本一円の国公立大学の共同学術出版会です。



出版している教員による「出版のコツ」研修などを開催してきました。全額補助の出版助成公募は5月頃にあります。その他、出版相談もできます。ぜひお早めにご検討ください。

その他の学術出版助成については各種サイトをご参照ください。（例えば、次のようなサイトには一覧が掲載されています。<http://www.kyoiku.co.jp/04sippitsu/06joseiitiran.html>）

●山口県立大学の出版記号を取得される場合

ブックレットやテキスト、その他の出版物で、市販を目的としないものについては、本学の出版記号（ISBNコード）を付与することができます。詳細は本学ホームページ（教職員専用 → 様式ダウンロード）から「出版者記号付与事業」をご覧ください。

6. 本学教員の出版図書の展示コーナーに寄贈をお願いします

図書館ロビーには、「本学の教員が出版した本の展示コーナー」があります。学術書やテキスト・副読本、ブックレット等、ご出版の際にはぜひ一冊、図書館にご寄贈をお願いいたします。

7. 公立大学協会図書館協議会中国四国地区協議会について

公立大学協会図書館協議会は、「公立大学図書館相互の連携と協力により、図書館機能の向上を支援し、図書館の振興と学術情報基盤の発展に寄与することを目的」に、全国を6地区に分け、各地区で毎年度の総会や研修会などを開催しています。中国四国地区には鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県の9県から16大学（徳島県には公立大学なし）が加盟。平成29年4月には、愛媛県の子規記念館において、これらの公立大学図書館長や職員が集まり総会が

開催されました。

本学は平成 29～30 年度の会長館にあっているため、総会準備を行ったほか、6 月に和歌山で開催された全国総会への出席や、9 月 14 日（金）・15 日（土）に本学で開催する中国四国地区研修会の企画運営などを行っています。研修会当日は、8 県 16 大学（山口県大学図書館協議会加盟校含む）から図書館関係教職員が北キャンパスに集まります。各大学図書館の特色についての発表や、大学図書館における著作権取り扱いに関する講演などのプログラムを用意しています。

来年度は会長館として、中国四国地区総会を島根県の会場で、また研究会は本学において開催準備をする必要があります。これとは別に、山口県大学図書館協議会の会長館でもあり、こちらの総会は本学で 7 月に開催しました。また、中国四国地区大学図書館研究集会は、10 月に山口大学において開催される予定で、こちらの運営委員会のメンバー館にもなっています。

大学図書館では、毎年増加する書籍スペースの確保、学術情報の電子化への対応、年々本を読まなくなる傾向がある学生への対応、複雑化する著作権への配慮、ラーニングコモンズとしての場の工夫、図書館サービスの向上など、共通の課題に知恵を出し合うため、様々なレベルでの取り組みが行われています。その一つが、「学生協働」による大学図書館の活性化です。学生と教職員がともに研修を行うため、9 月 5 日（火）・6 日（水）に愛媛県での大会に本学学生 2 名が出席します。

8. 9月中旬～12月末：購入したい図書に投票を！

図書館では、図書購入方針の見直しを行っています。学術情報委員会を通して各部署から図書購入希望をとるほか、学生や教職員から広く希望をとって図書購入を行うため、ウェブ上で図書を閲覧し、希望する図書をクリックしていただき、投票数の多いものから購入リストを作成します。

約 40,000 冊超の図書から選んでいただくデータについては、学科や専攻、学生や教職員別にリストを作成します。今回は試行ですが、結果を見たうえで、来年度からの活用方法を検討する予定です。

図書の閲覧・投票用のサイトの準備ができ次第、全学メールでお知らせします。

編集後記

早いもので、もう9月。科研費の申請の時期を迎えます。この編集後記を書くたびに、季節が進んでいくのを実感しています。今回もたくさんの方々のご協力のもと、無事に『学術情報センターだより第3号』を発行することができました。本当にありがとうございました。

次号は学生の皆さんに向けた教員からの「お勧めの本」を中心に楽しい紙面をお届けしたいと思っておりますので、ご期待ください。

(K. M)

